

平成 25 年度

病害虫発生予報第 6 号

平成 25 年 10 月 24 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	5
4. 予察項目の見方	8
5. 今月のトピックス(トマトのタバココナジラミについて)	9
6. 気象のデータ	10
7. おしらせ	12

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 果樹

カンキツでは、ミカンハダニの発生量は**平年並**と予想されます。

2) 茶

チャでは、カンザワハダニの発生量は**やや少**と予想されます。

3) 野菜

トマトでは、疫病の発生量は**平年並**と予想されます。

イチゴでは、ハダニ類の発生量は**やや多**と予想されます。多発すると防除が困難となるため、適期防除に努めてください。うどんこ病の発生量は**平年並**、炭疽病の発生量は**やや少**と予想されます。

ハクサイでは、白斑病の発生量は**平年並**と予想されます。

キャベツでは、黒腐病の発生量は**平年並**と予想されます。

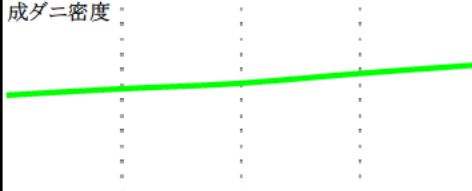
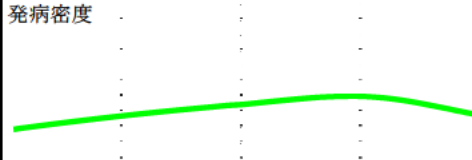
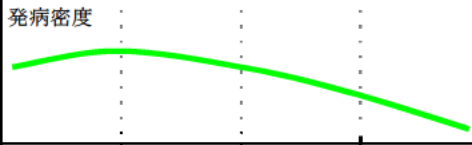
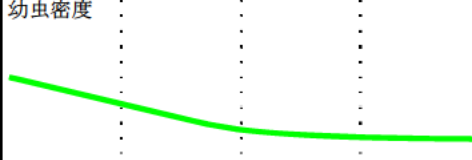
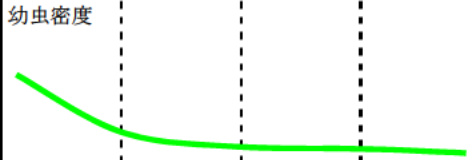
ネギでは、シロイチモジヨトウの発生量は**やや多**と予想されます。食入すると薬剤がかかりにくくなるため、孵化幼虫を対象に防除してください。ネギコガの発生量は**平年並**と予想されます。

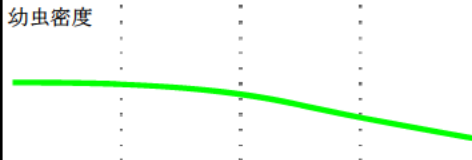
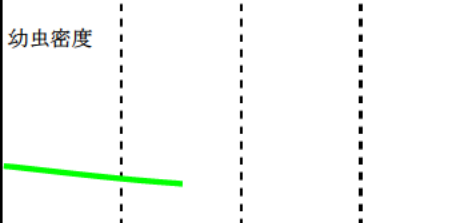
野菜共通では、ハスモンヨトウの発生量は**多**と予想されます。老齢幼虫になると薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫を対象とした防除を徹底してください。コナガの発生量は**平年並**と予想されます。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						10月	11月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	ミカンハダニ	—	平年並	中	普通	成ダニ密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 1葉当りのハダニ成虫数が、0.5～1.0頭にならなければ防除の必要はありません。 2) 中晩柑類で袋かけをする品種では、作業にかかる前に必ず発生状況を確認し、必要に応じて防除を行ってください。
チャ	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通	成ダニ密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 摘採面では生息密度は低いですが、裾葉裏では散見されます。 2) 葉液が、葉裏にかかるように、丁寧に散布しましょう。 3) 抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避けましょう。
トマト	疫病	—	平年並	小	普通	発病密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 発病後の病徴の進展が非常に早いので、初発生を確認した場合には集中的に薬剤散布をしてください。 2) 20℃ぐらいの比較的低温で多湿条件の時に発生が多くなります。 3) 病原菌は被害植物の残渣とともに土の中に残り、伝染源となります。被害株および枯死株は圃場外に持ち出し処分してください。
イチゴ	うどんこ病	—	平年並	小	普通	発病密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) ビニールの被覆後、発生が増加します。 2) 予防防除に重点をおいて薬剤散布をしてください。 3) 発病を認めたときは、葉裏に葉液がかかるよう、下葉を除去して丁寧に防除してください。
	炭疽病	—	やや少	小	普通	発病密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 感染した苗は、本圃定植後に発病します。 2) 発病株は除去し、圃場外へ持ち出して適切に処分してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						10月	11月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イチゴ	ハダニ類	—	やや多	中	普通	成ダニ密度		1) 天敵を利用する場合は、発生密度の低いうちに導入し、農薬は天敵への影響を考慮して使用してください。 2) 薬剤防除では、発生を確認したらできるだけ早期に防除してください。 3) 薬剤をかかりやすくするため下葉を除去し、葉裏までしっかりと散布してください。 4) 抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。		
	ハクサイ	—	平年並	中	普通	発病密度		1) 秋から初冬にかけて、雨の多い時期に多発する傾向があります。 2) 肥料切れすると発病を助長するので注意してください。 3) 発病初期の薬剤防除を徹底してください。		
キャベツ	黒腐病	—	平年並	小	普通	発病密度		1) 土壌中の病原菌が雨滴などにより葉に飛散し、感染します。降水量が多いと感染することが多いので、大雨後や特に冠水したときは、速やかに薬剤防除をしてください。 2) 発病株を放置すると翌年の伝染源となるので、圃場外に持ち出して処分してください。		
ネギ	ネギコガ	—	平年並	小	普通	幼虫密度		1) 幼虫が葉の内部に潜るので、潜入防止のため、発生初期から防除をしてください。		
	シロイチモジヨトウ	—	やや多	中	普通	幼虫密度		1) 若齢幼虫から葉の内部に侵入し、内側から表皮を残して食害します。 2) 老齢になるに従って薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫のうちに防除してください。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。		

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						10月	11月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
野菜共通	コナガ	—	平年並	中	普通					1) 冬でも緩やかながら生育を続けて加害します。 2) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。
	ハスモンヨトウ	—	多	大～甚	高					1) 病害虫発生予察注意報第5号(10月18日発表)。 2) 老齢幼虫に対しては防除効果が劣るので、若齢幼虫のうちに防除を行ってください。 3) 新芽部を食害されると、生育や収量への影響が大きいため、適期防除に努めてください。 4) 施設ではハウスのパイプや換気口周辺などの資材にも産卵するので、注意してください。

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1 か月予報(10月18日発表)によると、気温は低くなく、降水量は少ない予想 (±) 2) 県予察圃(10月中旬)では、100葉当り寄生頭数は無防除区 20.0頭(平年 45.9頭)とやや少、慣行防除区 34.4頭(平年 39.2頭)と平年並 (-) 3) 巡回調査圃場(10月第2週)では、発生圃場率 53.9%(平年 33.6%)、寄生葉率 8.0%(平年 4.2%)、寄生頭数 0.20頭/葉(平年 0.07頭/葉)といずれも多 (+) 4) 広域防除員による調査(10月上旬)では、地域や圃場によってばらつきはあるが、概して発生量は平年並 (±) 5) 一般圃場では、発生量は平年並 (±) <p>考察：現状の発生量は圃場によるばらつきはありますが平年並と考えられ、大きな増減要因はないので、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
チャ	カンザワハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1 か月予報(10月18日発表)によると、気温は低くなく、降水量は少ない予想 (±) 2) 県予察圃(10月中旬)では、寄生葉率 1.0%(平年 3.0%)とやや少、寄生頭数 0.01頭/葉(平年 0.12頭/葉、ただし5か年は0頭/葉)とやや少 (-) 3) 巡回調査圃場(10月第2週)では、寄生葉率 0.4%(平年 1.0%)と少、寄生頭数 0.01頭/葉(平年 0.01頭/葉)と平年並 (-) 4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±) <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、大きな増加要因がないことから、予想発生量はやや少と考えます。</p>
トマト	疫病	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 巡回調査圃場(10月第2週)では、発病株率 0%(平年 0%)と平年並に少 (±) 2) 一般圃場では、発生量は無～平年並(概して平年並に少) (±) <p>考察：現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、大きな増加要因がないので、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
イチゴ	うどんこ病	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1 か月予報(10月18日発表)によると、気温は低くなく、降水量は少ない予想 (+) 2) 巡回調査圃場(10月第2週)では、発病株率 0.7%(9年平均 0.2%)とやや多の傾向 (+) 3) 一般圃場では、発生量は少～やや少(概してやや少) (-) <p>考察：一般圃場の状況を重視して、現状の発生量はやや少と考えられますが、巡回調査結果及び気象要因による今後の増加を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	炭疽病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1)巡回調査圃場(10月第2週)では、発病株率0%(平年0.6%)と少 (-)</p> <p>2)一般圃場では、発生量はやや少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察:現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	ハダニ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1)1か月予報(10月18日発表)によると、気温は低い予想 (+)</p> <p>2)巡回調査圃場(10月第2週)では、寄生株率8.0%(9年平均6.3%)とやや多の傾向、発生程度2.3(8年平均2.8)とやや少の傾向 (±)</p> <p>3)一般圃場では、発生量は平年並~やや多(概してやや多) (+)</p> <p>考察:一般圃場の状況を重視して、現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
ハクサイ	白斑病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1)1か月予報(10月18日発表)によると、降水量は少ない予想 (+)</p> <p>2)巡回調査圃場(10月第2週)では、発病株率0%(平年6.3%)、発病度0(平年1.6)とやや少 (-)</p> <p>3)一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察:現状の発生量はやや少と考えられますが、気象要因から今後の増加を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
キャベツ	黒腐病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1)1か月予報(10月18日発表)によると、降水量は少ない予想 (+)</p> <p>2)巡回調査圃場(10月第2週)では、発病株率1.0%(平年0.2%)、発病度0.3(平年0.04)と多 (+)</p> <p>3)一般圃場では、発生量は無~少(概して少) (-)</p> <p>考察:一般圃場の状況を重視して、現状の発生量は少と考えられますが、巡回調査結果及び気象要因から今後の増加を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
ネギ	ネギコガ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1)県予察圃フェロモントラップ(9月第5半旬~10月第4半旬)では、誘殺数2頭(平年19.7頭)と少 (-)</p> <p>2)巡回調査圃場(10月第2週)では、被害葉率0%(平年0.5%)と平年並に少 (±)</p> <p>3)一般圃場では、発生量は無~平年並(概して平年並に少) (±)</p> <p>考察:現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、今後大きな増加が見込まれる時期ではないので、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	シロイチモジヨトウ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1)県予察圃フェロモントラップ(9月第5半旬~10月第4半旬)では、誘殺数78頭(平年47.4頭)と多 (+)</p> <p>2)巡回調査圃場(10月第2週)では、新葉での被害葉率7.2%(平年4.1%)とやや多 (+)</p> <p>3)一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察:現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
野菜 共通	コナガ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(10月18日発表)によると、気温は低くなく、降水量は少ない予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(9月第5半旬～10月第4半旬)では、誘殺数7頭(平年13.8頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(10月第2週)では、ハクサイの寄生株率0.2%(平年0.2%)と平年並、寄生虫数0.002頭/株(平年0.01頭/株)と平年並、キャベツの寄生株率0.8%(平年1.6%)と少、寄生虫数0.01頭/株(平年0.02頭/株)と平年並 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハスモンヨトウ	-	多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(10月18日発表)によると、気温は低くなく、降水量は少ない予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(9月第5半旬～10月第4半旬)では、誘殺数2100頭(平年1807.2頭)と多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(10月第2週)では、トマトの寄生株率0.4%(平年0.1%)とやや多、イチゴの寄生株率6.5%(平年1.6%)と多、ハクサイの寄生株率0.5%(平年0.7%)と平年並、キャベツの寄生株率8.5%(平年4.6%)と多 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はイチゴ及びアブラナ科野菜でやや多 (+)</p> <p>考察：現状の発生量は多と考えられ、引き続き予想発生量は多と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価	早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

			平年値 ↓			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並	やや多	多	

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のピックアップ「トマトのタバココナジラミについて」

◆タバココナジラミについて◆

タバココナジラミ(写真 1)はトマトをはじめ、様々な野菜類、花き類を加害します。トマトではウイルス病の一種であるトマト黄化葉巻病を媒介し、少しでも保毒虫がいれば感染させるため、対策が困難な重要害虫です。

本種にはバイオタイプ(形態以外の生物学的性質が異なる系統)のあることが知られており、三重県のトマトではバイオタイプ B(従来のシルバーリーフコナジラミ)とバイオタイプ Q が発生しています。



写真 1. タバココナジラミ成虫及び卵(左)と蛹(右)

◆生態及び被害◆

本種は、ビニールハウスなど施設栽培では周年発生します。

成虫は体色が淡黄色、翅は白色で、体長 0.8mm 程度です。卵は葉裏に産みつけられます。

幼虫は葉から吸汁して生育阻害を引き起こします。多発すると排せつ物にすす病が発生し、植物体が黒く汚れるほか、着色異常果(写真 2)が発生する場合があります。黄化葉巻病に感染すると発病株全体が萎縮し、開花しても着果しないことが多く、収量が著しく減少します。



写真 2. タバココナジラミによる着色異常果

表. タバココナジラミバイオタイプQに対する薬剤感受性検定試験結果(2006~2008年、三重県農業研究所)

種類	代表的な商品名	コード番号 ^{※1}	検定結果 ^{※2}	
合成ピレスロイド剤	トレボン	虫3	×	
ダニ剤	サンマイト	虫21	◎	
ネオニコチノイド	クロロニコチル系	アドマイヤー	虫4A	×
		モスピラン	虫4A	×
		ベストガード	虫4A	◎
		バリアード	虫4A	×
	チアニコチル系	アクタラ	その他	×
		ダントツ	虫4A	×
	フラニコチル系	スタークル	虫4A	◎
ピリジニアゾメチン	チェス	虫9B	×	

※1 IRACの分類コード(2012年2月現在)による。

※2 ◎:死亡率80%以上、×:死亡率50%以下、いずれも成虫に対する効果。

◆薬剤感受性◆

本種はバイオタイプによって薬剤感受性が異なり、バイオタイプ Q では多くの殺虫剤で現在薬剤感受性の低下が確認されています(表)。圃場におけるバイオタイプの生存割合は明らかではないので、防除効果が十分でない場合は薬剤の選定に注意してください。

◆防除対策◆

- 1) トマト黄化葉巻病の発生を防ぐため、育苗期の段階から防除を徹底しましょう。
- 2) 黄色粘着板を設置して早期発見につとめ、低密度のうちに薬剤散布してください。
- 3) 施設の開口部に防虫網(目合い 0.4mm が望ましい)を張り、成虫の施設内への侵入を抑制しましょう。
- 4) トマト栽培終了後は施設を密閉して蒸し込みを行い、本種を死滅させましょう。(写真はいずれも三重県農業研究所 西野実氏原図)

6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 25 年 10 月 18 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう1か月は、天気は数日の周期で変わりますが、期間のはじめは、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。その後は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

特に、期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。

1 週目 10 月 19 日～ 25 日	気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすく、雨の降る日が多いでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 1.7 日・4.3 日
2 週目 10 月 26 日～ 11 月 1 日	低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	同 1.6 日・4.3 日
3～4 週目 11 月 2 日～ 15 日	高気圧に覆われて、天気は平年と同様に晴れる日が多い見込みです。	同 3.0 日・8.8 日

東海地方週間天気予報 (平成 25 年 10 月 23 日 10 時 30 分 名古屋地方気象台発表)

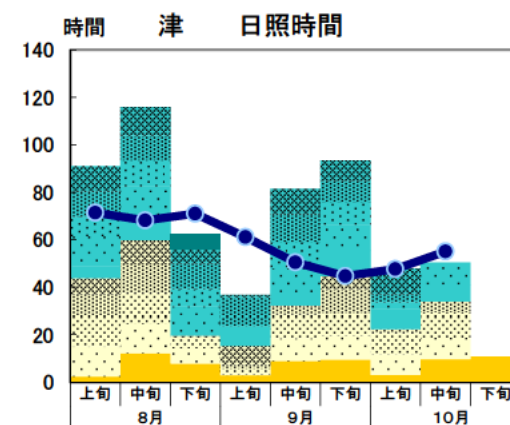
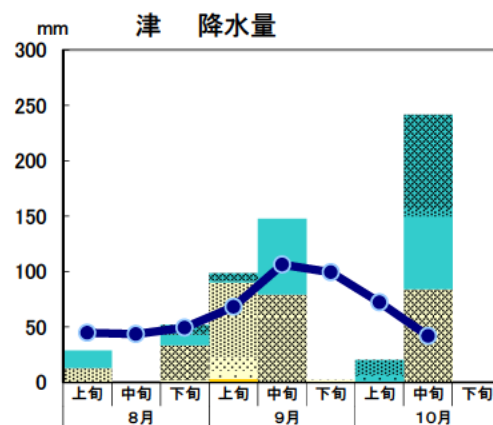
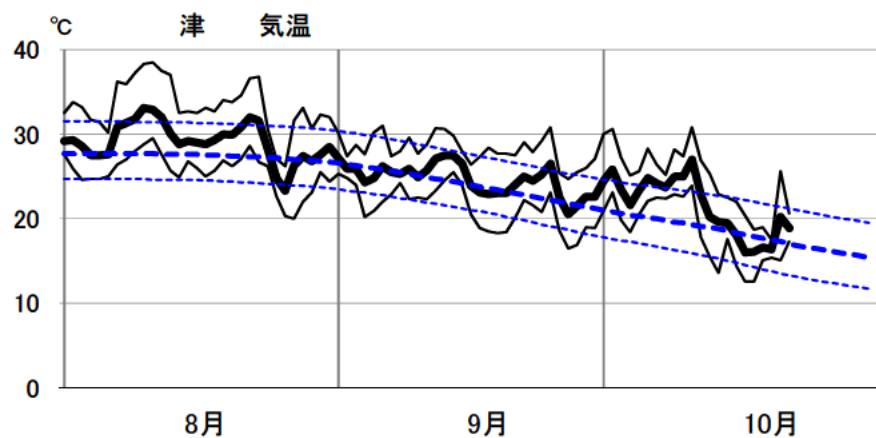
予報期間 10 月 24 日～10 月 30 日

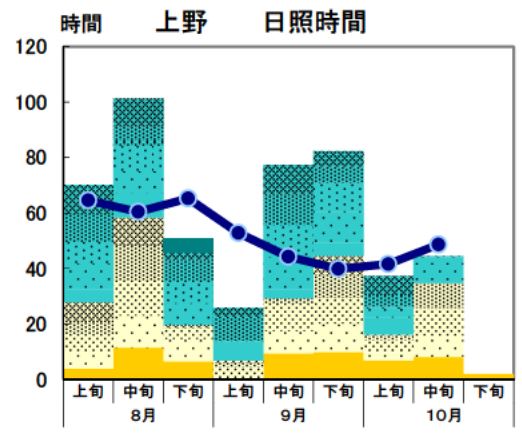
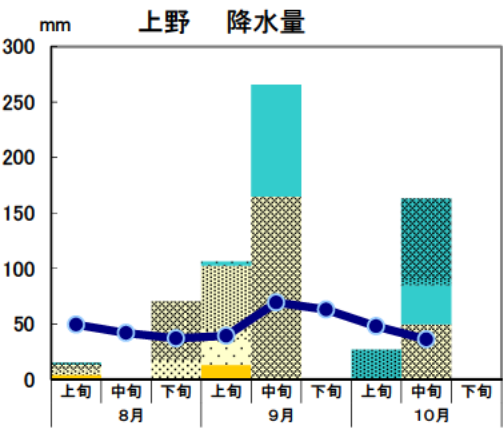
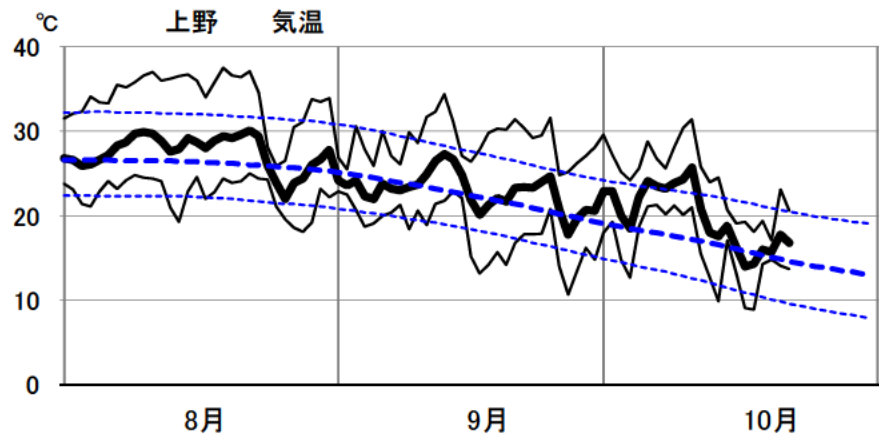
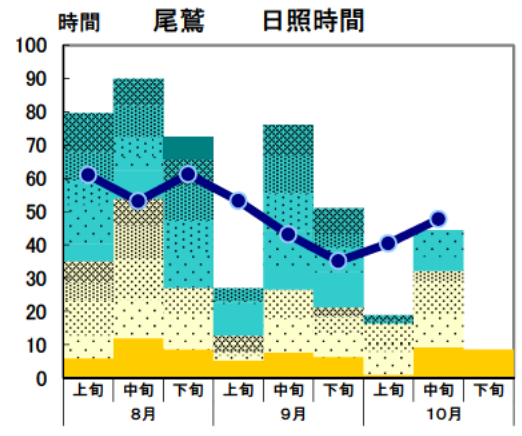
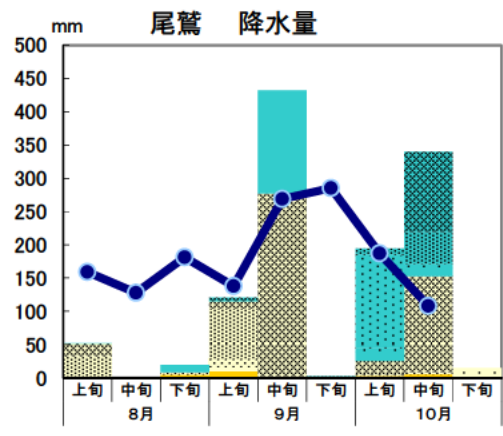
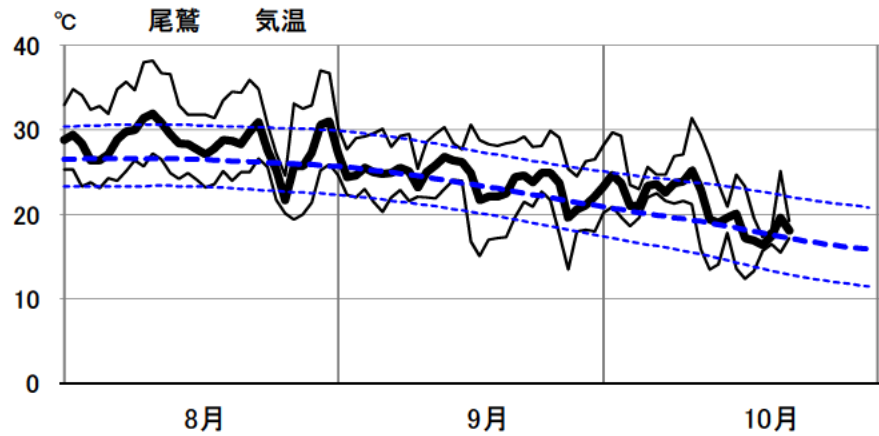
向こう一週間は、期間の中頃にかけて台風や前線の影響で曇りや雨の日が多く、終わりは高気圧に覆われて概ね晴れるでしょう。なお、台風第 27 号の影響を受けて 26 日は荒れた天気となり、27 日もこの影響が残る見込みです。

最高気温は概ね平年並でしょう。最低気温は平年並か平年より高く、期間の前半はかなり高い日もある見込みです。

降水量は平年より多いでしょう。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (10 月 22 日まで)





凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- - - 平年平均
- - - 平年最高
- - - 平年最低

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回 4月25日(済み) 第2回 5月23日(済み)

第3回 6月20日(済み) 第4回 7月25日(済み)

第5回 8月29日(済み) 第6回 10月24日(今回)

第7回 3月20日(木)

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアド

レスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h25yohotobiki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について **NEW**

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全課ホームページ内

<http://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/work/ipm/main.htm>